

1 F-4号機 R O電気品室(Y-zone) における靴の未着用について

2019年6月10日



東京電力ホールディングス株式会社

1.事象発生経緯

■ 発生事象

2019年6月6日、当社社員は他グループとの工事間での施工エリア干渉調整を目的とした現場調査を4号機タービン建屋2階RO電気品室(Y-zone)にて、多数の協力企業社員と実施していた。(当社社員4名+協力企業6名程度)

靴の履き替え運用としている電気品室に入室しようとした際に、配備されていた靴の数が不足していた(5足)ため、靴の履き替えを行わず靴下のまま入室した。

現場調査終了後の退域時体表面モニタによる測定を受けたところ、このうち4名(当社社員3名、協力企業1名)の両足裏から汚染が検出され、1名からは40Bq/cm²を超える高い汚染があることが確認された。(汚染は靴下で留まっており、身体汚染は確認されず。)

■ 時系列

- 8:10頃 新事務本館より現場出向
- 8:40頃 HTI建屋南側着替え所にてG→Y装備へ着替えを行う
- 9:15頃 建屋内RO電気品室へ入室 (汚染発生)
- 9:50頃 建屋内RO電気品室より退室
- 11:30頃 HTI建屋南側着替え所にてY→G装備へ着替えを行う
- 11:43 入退域管理棟の体表面モニタにて両足裏の汚染を検出
- 12:02 C/P監視員の測定を受け、身体汚染のない事を確認し退域

■ 汚染状況(最大値)

社員A：

右足裏 汚染高高 44.2Bq/cm²
左足裏 汚染高 27.0Bq/cm²

※汚染は靴下で収まっており、
身体の汚染は確認されなかった。

2.原因と暫定対策

■ 原因

- 電気品室内は電気品室外同様の汚染レベルの区域設定(Yゾーン)であることは認識していたが、室内外の靴履き替え運用は塵埃侵入対策のためであり、電気品室内は**汚染がないものと思い込んでしまったため**、靴を履かずに入室した。
- 協力企業と共に現場確認を行うだけであったため安全装備としての内靴の必要性を軽視してしまった。

■ 早急に実施する対策

- 当該および類似の靴履き替え運用を行っている各電気品室の内靴を充足させる。
- 各電気品室の目に付くところにYゾーン／Gゾーンが明確に分かるような注意喚起表示を取り付ける。また、履き替え運用している電気品室内でも汚染があることを強調する注意喚起表示も行う。
- O E 情報として速報を流し、所員への周知徹底を速やかにはかる。(6/7(金)実施済)

※今後、社内不適合対応プロセスにて原因究明、対策検討を実施していく。

